

スポーツ推進だより

平成30年12月 No.131



第65回 岡崎市民体育祭 (30.10.7)

スポーツ推進だより 目次

第65回岡崎市民体育祭	2～3
スポーツ推進委員 第2回全体研修会	4
Area report (竜谷学区)	5
Area report (秦梨学区)	6
Area report (六ツ美中部学区)	7
愛知県スポーツ推進委員研修会	8

第65回 岡崎市民体育祭

10月7日(日) 岡崎中央総合公園 球技場



第1ブロック優勝 恵田学区

「市民体育祭連覇」

恵田学区 堀越 政彦

10月7日、天候が心配されましたが、無事、岡崎市民体育祭が開催されました。恵田学区は、昨年優勝ということもあり、多くの方々に参加、応援を頂きました。また皆様の頑張りの結果、連覇を勝ち取ることが出来ました。参加頂いた方々の笑顔があふれ、楽しい1日となりました。

第2ブロック優勝 常磐学区

「昨年の成績をバネにして」

常磐学区 杉山 祥

我が常磐学区は昨年惜しくも2位の悔しさをバネに、今年の異常気象の中、早くから選手集めに気をいれて準備を進めました。前日の雨から一転、晴天に恵まれた大会当日も、小中学生は例年通り上位を取り、応援にも力が入る中、大人も直前まで練習をする力の入れ様で頑張り、一致団結！見事、地区優勝の成績を収めることができました。学区の皆様、本当にありがとうございました。この勢いで来年V2だ!!

第3ブロック優勝 岩津学区

「久しぶりの優勝」

岩津学区 吉川 英治

過日行われました市民体育祭では、第3ブロックでみごと優勝を勝ち取ることが出来ました。小・中学生が男女とも毎年好成績を残しているが玉入れあたりからズルズルと順位を下げていく、という感じでしたが、今年は違いました。競技が進むにつれて、学区の皆さんの応援がヒートアップしていき、最後の年齢別混合800mリレーの応援の時には一丸となって「岩津、岩津、岩津」と競技が終了するまで熱い声援が続きました。選手、関係者の皆様の御協力により久しぶりの優勝が出来ましたことを感謝し、心からお礼を申し上げたいと思います。

第4ブロック優勝 連尺学区

「笑顔いっぱいの優勝」

連尺学区 鈴木 紀勝

「おー！凄い高得点だ！！」応援席は大興奮。小中学生が勢いをつけ、大応援団の熱い声援が絆を結んだ。玉入れは運も味方につけ、バージャンプは粘りを見せた。障害物リレー・年齢別リレーはぶっちぎりの優勝だ。そして、祝賀会ではスタッフの労をねぎらい、学区の親睦も深まり、大変充実した一日でした。ありがとうございました。

第5ブロック優勝 六ツ美西部学区

「強い西部が帰ってきた！」

六ツ美西部学区 八田 朋生

過去には毎年のように優勝争いを演じてきた六ツ美西部学区ですが、ここ最近では不振続き。さらに、今年は9月の週末に雨が多く、練習をしっかりと積むことができなかったため苦戦を予想していました。ところが、蓋を開けてみれば序盤の小中学生のリレーで首位に立つと、例年苦手の玉入れとバージャンプで共に3位入賞して中押し。最後は得意の障害物リレーで盤石の1位をとり、最終種目を待たずに優勝確定。まさに強い西部が帰ってきた感じです。来年もこの調子で頑張ります。

第6ブロック優勝 大門学区

「自分史上最高のゴールをつかめ！」

大門学区 山本 義明

「自分史上最高のゴールをつかめ！」をテーマに掲げ、優勝旗奪還を目標に大門学区一丸となり、春の運動会前から取り組んできました。今大会は稀にみる混戦で、種目ごとに首位が入り替わる状況の中、最終種目で首位に並び、優勝することができました。最後まで諦めることなく頑張ってくれた選手、声を囁らし応援してくれた学区の人、「優勝おめでとう！」そして、「お疲れ様。ありがとう！！」

第7ブロック優勝 根石学区

「学区の絆 ブロック優勝！」

根石学区 中根 久夫

伝統のある根石学区。過去数回に渡り優勝を勝ち取って来た。2017年度は準優勝に終わり、2018年度市民体育祭に対する熱い思いが集結した。競技前半、玉入れまでは3位に着けたがなかなか得点が伸びない。しかしここからが根石学区の底力。応援団長指揮の下、選手のみなさんと応援者のみなさんにスイッチが入ってしまった。バージャンプ2位、障害物2位、最後の年齢別リレーではみんなの思いが最高潮に達し見事1位にてブロック優勝を果たすことが出来ました。改めて学区の絆を知ることができた素晴らしい一日でした。



第2回 全体研修会

梅園学区 稲吉 幸江



8月25日(土)岡崎市花園体育センターにて、スポーツ推進委員の『第2回全体研修会』が開催されました。今回の研修種目は「クロリティ」、「ナンバーカップ」の2種目です。「クロリティ」は、ベテランのスポーツ推進委員の方でもやったことがないと言われたほど!「ナンバーカップ」は、昨年の西三河地区実技研修会に参加したスポーツ推進委員が初体験!…と、2種目ともに新鮮なスポーツで、皆さん興味津々で取り組まれていました。「ナンバーカップ」は、西尾市スポーツ推進委員の方々が講師として来てくださり、丁寧にご指導くださいました。

■ クロリティ

「クロリティ」は、ボール付きのボード(得点盤)にリング(輪)を投げて、得点を競うスポーツです。単なる「輪投げ」とは違って、ボールにリングが入ってなくても、盤上にあれば得点になったり、相手のリングを盤上から落とすこともできたりと、1投1投機転を利かせてプレーするところに面白みがありました。

ルール説明では得点方法の理解が難しく、体験しながらということで、まずはリングをボード目掛けて投げてみました。リングは意外と重さがありました。今回はボードまでの距離を5m・7m・9mで体験しました。リングの持ち方投げ方、皆さんそれぞれに試行錯誤して投げていました。リアクションボードという壁になったボードにリングを当てると、リングが得点盤に上手く乗るとアドバイスもいただきました。チーム1投ずつ交互に投げ、各々10投投げ終わったら得点を数えます。判定器を使って、リングの重なり具合で得点が加算されたり、無効になったりと、ゲーム性のある競技でした。



■ ナンバーカップ

「ナンバーカップ」は、木製の棒を下投げで、3.4m先にある12本の木製のピン(ピンには1から12までの数が印字)を倒し、得点の合計を50点にする競技です。この競技の一番のポイントは、50点を超えて得点したら、25点へ減点されてしまうところです。「すごろく」のように、ピッタリ「50点」になったチームがでたら、ラウンド終了となります。得点は、完全に倒れたピンの本数か、1本のみの場合は、そこに記されている数字が得点になります。チーム毎に得点を加算していきます。始めはピンが12本固まっていますが、倒れた所でピンを起こすので徐々にピンが散らばっていき、ゲームが進むにつれて1本狙いも出来るようになります。しかし、チームで連続3回0点になると、その時点で失格となるので要注意です。こちらもゲーム性があり、大変白熱していました。

2種目とも、子どもから大人まで誰でも楽しめる、まさに生涯スポーツです。「ナンバーカップ」は、室内用として、ビー玉を入れたペットボトルのピン、新聞紙を芯にした筒箱の棒を紹介していただきました。私の学区でも「ナンバーカップ」体験会を開催したところ、大盛り上がりでした。次は「クロリティ」も実践したいと思います。自分たちが体験して楽しいと感じたことを、学区の方々にも是非体感していただけるよう、普及に努めたいと思います。

研修会最後に、今回ご尽力頂いた西尾市スポーツ推進委員会の羽佐田委員長より、我々が毎回行っている「モーニングストレッチ」と、研修会に於ける「マニュアル」がきちんとしていてとご講評を頂きました。そして、熱心に研修している姿に対してお褒めの言葉を頂きました。



AREA REPORT

学区紹介

小坂 貴志

スポーツを楽しもう!

竜谷学区は市の東部に位置し、額田郡幸田町と境を接し学区の中央を竜泉寺川が流れ、周りを桑谷山・天目山・柄栗山に囲まれ、人口2,961名が暮らす自然に恵まれた緑の豊かな地域であります。

竜谷学区スポーツ行事

- 5月 学区連合大運動
- 9月 学区ソフトミニバレーボール大会
- 10月 市民体育祭
- 11月 学区グランドゴルフ大会
- 2月 学区をみんなで歩こう会



みなさんは、どんなことがきっかけでスポーツを楽しんでいますか。健康づくり、趣味、リフレッシュ、友達とのコミュニケーション、試合出場など、目的は違いますが、スポーツを一人ひとりが楽しんでいると思います。竜谷学区にも、運動施設として小学校グラウンド、体育館、子どもの家などがあり、18の諸団体が日々活動しています。学区行事としても、体育行事の最大のイベントである竜谷学区連合大運動会があります。これは先生方と3世代がふれあえるイベントでもあります。今年で23回目となりましたが次の世代にも引き継がれる行事にしていきたいと思っています。学区連合運動会のひとつの特徴として、字別対抗の年齢別男女混合リレーで優勝したところが岡崎市民体育祭の出場権を得られることになっています。学区ソフトミニバレーボール大会は、だれでも楽しめるように、毎年ルールを見直し、参加者の意見を取り入れながら運営しています。ここ数年は女性チーム数が減少傾向にありますが、コートを3面設置し、混合チームも含めて毎年白熱した試合を展開しています。学区グランドゴルフ大会は、市内でも強豪と聞いていて年配の方を中心に楽しみにしている行事でもあります。当日の競技設営については、竜谷グランドゴルフの方々にお手伝いしていただきながら行事を進めています。このように竜谷学区の体育行事は参加者の年齢層も幅広くそれぞれの年代の方が参加して楽しめる体育行事となっています。

これからもスポーツを楽しむために、このような機会を大切にしていきたいと思っています。





AREA REPORT

学区紹介

蒲野 昌志

ココロとカラダを元気に!

秦梨学区は岡崎市中央東部に位置し、4町5地区からなる人口約970人の学区です。豊かな自然に恵まれ、野山を散策、美しい乙川で魚釣りやホタルの鑑賞など四季を通して自然を楽しめます。趣味で野球やソフトボール、テニスやマラソン、ゴルフといったスポーツを愛好する方がたくさんいるとても活気あふれる地域です。

秦梨学区スポーツ行事

- 5月 秦梨学区大運動会
- 10月 市民体育祭
- 11月 スローピッチ、ミニテニス大会
- 2月 ソフトミニバレー大会



年間のスポーツ行事は社教委員会主催で、体育振興委員・管理指導委員・スポーツ推進委員の総員19名で企画・運営を行っています。

年度最初の行事が5月の秦梨学区大運動会、小学校と各団体が協力して運動会の準備を進めます。私たちが担当する競技は玉入れ、障害物リレー、綱引き、年齢別リレーの町別対抗競技です。それらを役割分担して競技を進めて行きます。腕自慢、脚自慢が出場するこの4競技はたいへん盛り上がります。楽しみながらも勝ちを目指し真剣に競う姿は皆さんとてもかっこいいです。毎年たくさんの方に参加していただき、大歓声のなか笑いもあり地域一体で、子供から大人までスポーツを楽しんでいました。

11月はスローピッチ・ミニテニス大会、どちらも白熱した戦いになります。経験者の方が多いので珍プレー好プレーもあったり、相手をヤジらず味方をヤジって笑いがあったりと、みんな笑顔でひとつひとつのプレーを楽しんでいます。委員の皆さん、参加者の皆さん、地域の皆さんの支えと協力により大成功で行事を終える事ができました。次は2月のソフトミニバレーになります。岡崎市学区交歓レクに毎年参加されているママさん達がいいますから試合はとても盛り上がります。レベルの高い試合になりますので素晴らしいプレーが大歓声をよび、また男性陣も負けず劣らずママさん達に対抗します。いいプレーをしてもミスをして笑顔ありで楽しんでいます。

このスポーツ行事はコミュニケーションをとる場でもあり、またスポーツを通じて地域の皆さんとつながりをより深める場でもあります。そしてココロもカラダも元気になります。

老若男女、みんなが楽しめる新しいスポーツも取り入れて、地域の皆さんと笑顔で楽しめる行事にしていきたいと思います。





AREA REPORT

学区紹介

萩原 光一

スポーツで増やす笑顔

六ツ美中部学区は岡崎市の南西端に位置し、南は西尾市、西は安城市に隣接しています。古くは矢作川の氾濫原でその肥えた土地に農業が盛んになりました。今も田畑が広がりのだかな景色となっています。一方、自動車部品・電動工具等の工場や倉庫も点在し、さらに地元の農作物を販売する「ふれあいドーム岡崎」「六ツ美体育館」(旧勤労者体育センター)「美矢井橋河川緑地運動場」を内含するため他地区からの出入りも盛んでほどよく賑わっています。

六ツ美中部学区スポーツ行事

- 5月 体育祭
- 7月 ソフトミニバレーボール大会
- 8月 ソフトボール大会
- 11月 六ツ美中部・六ツ美南部合同ペタンク大会
- 12月 ファミリーバドミントン大会
- 1月 竹馬大会



私どものスポーツ行事は、社教委員会の体育委員会が中心に行っています。その構成は11町33名の体育委員に執行部6名とスポーツ推進委員2名からなります。

今年度前半は異常気象の続く中すべて順調に開催されました。体育祭は例年通り小学校と合同で行い、主に午前中は小学生のプログラム、午後は町別競技で得点を競い合いました。ソフトミニバレーボール大会、ソフトボール大会は伝統行事でその開催はそれぞれ第32回、第47回をむかえました。若手の選手が生まれる前から参加している元気なベテラン選手もいます。

後半の主な行事として合同ペタンク大会とファミリーバドミントン大会を控えています。合同ペタンク大会は一昨年より町別駅伝大会に替えて始めたもので、六ツ美南部学区と合同で行います。小学校グラウンドに9コート作り小学生からお年寄りまで総勢144名・48チームで優勝を目指します。当学区では目新しいためか初めてボールを手にしたチームでも好成績が残せています。

ファミリーバドミントン大会は今年度より始めます。岡崎市が推進するニュースポーツの中で導入しやすく幅広く参加を促せるということでグラウンドゴルフに変えて開催をすることとなりました。今年7月に六ツ美ブロックの4学区合同で行われた講習会には全11町の代表が参加し、さらに11月にも再度講習をおこない準備をすすめています。

六ツ美中部学区は、スポーツをより多くの人に触れていただき楽しんでいただくため、常に話し合いをしています。例年競技終了後に行われる反省会、親睦会で出される意見はすぐに反映されます。今年度の行事も昨年、一昨年の話し合いの中でまとまりました。最近では親睦会の回数は行事数を大幅に超えているようです。そのせいか現執行部の個性かはわかりませんが、委員はいつも笑顔で楽しそうに準備や競技を行っています。

大人が楽しそうに行事を行う姿は学区の子供や高齢者にも良い影響を与えていると確信しています。今後もこの良い雰囲気を持続しスポーツする人を増やし、笑顔を増やすため共に努力を続けて行きたいと考えます。

平成30年度 愛知県スポーツ推進委員研修会

矢作南学区 伊藤 仁

県内スポーツの推進に関する諸問題について研究協議し、スポーツ推進委員の資質向上を図るため「愛知県スポーツ推進委員研修会」が、9月29日新城文化会館にて開催されました。県内から総勢994名、岡崎市からは12名が参加しました。

研修会に先立ちスポーツ推進委員を20年、10年と継続されてきた方々の表彰が行われ、岡崎市からは、美合学区の戸松 裕さん、生平学区の原田 隆志さん両名が10年表彰を受けられました。永らくお疲れ様でした。今後も許す限り学区での活躍、後進の指導よろしくお願いいたします。



その後の研修会では、例年行っている各市町村の実践発表はなく、基調講演と「リーダー養成講習会」に参加された方々からの伝達講習が行われましたが、今回は最も印象深かった講演についてお伝えします。

演題は「障害者スポーツの振興とスポーツ推進委員にできること」で、日本福祉大学スポーツ科学部長 藤田紀昭氏よりご講演いただきました。最初に先生がおっしゃられたこと『「障害者スポーツ」と聞いて何か特別なスポーツという訳ではなく、ごくごく普通のスポーツ、例えば子どもが行うスポーツは、大人のそれよりもコートの大きさを縮小してと

いうように、その人その人に合ったやり方で工夫すること。』究極は「作るスポーツ」、健常者と障害者が一緒に行えるスポーツを作り出す。2020年パラリンピック夏季大会の種目の中から、「ゴールボール」、「ボッチャ」、「ブラインドサッカー」の様子が映像で紹介されました。健常者であってもアイマスクをすることで一緒に競技に参加できることを知り得ました。ゴールボールでは、ボールの中に仕込まれた鈴の音、また相手選手の足音を頼りに、ボールの飛んでくる方向、速さ、バウンドの大きさを判断します。その為、競技中の応援も音は出さないということに納得しました。

障害のある人のスポーツに関わるためにその理念として、特に次の3つを挙げます。

- ① 一人一人の特徴を見て指導の方法や運動の内容を考え（一斉指導は難しい）、内容ややり方をその人に合わせる。
- ② 評価は2つの物差し（一つは他人と、もう一つは以前のその人と）で。
- ③ 人間第一主義、障害に目が行くのではなく、その人自身を見ること。

出来ないことを見るのではなく、出来ることを見ること。教える・やらせるのではなく、本人に考えさせること。

最後に、障害のある人をスポーツ指導するときの魔法の言葉として、

- ・お医者さんに止められていることはありますか？
- ・こちらで配慮することがありますか？

と紹介がありました。

スポーツ推進委員として心に留めておきたい言葉と感じました。



発行 ● 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会
編集 ● 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会広報部
事務局 ● 岡崎市社会文化部スポーツ振興課 (TEL23-6363)
ホームページ ● <http://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1556/281500/p021076.html>